保険診療における漢方薬の貢献

日本臨床漢方医会

令和７年３月３０日

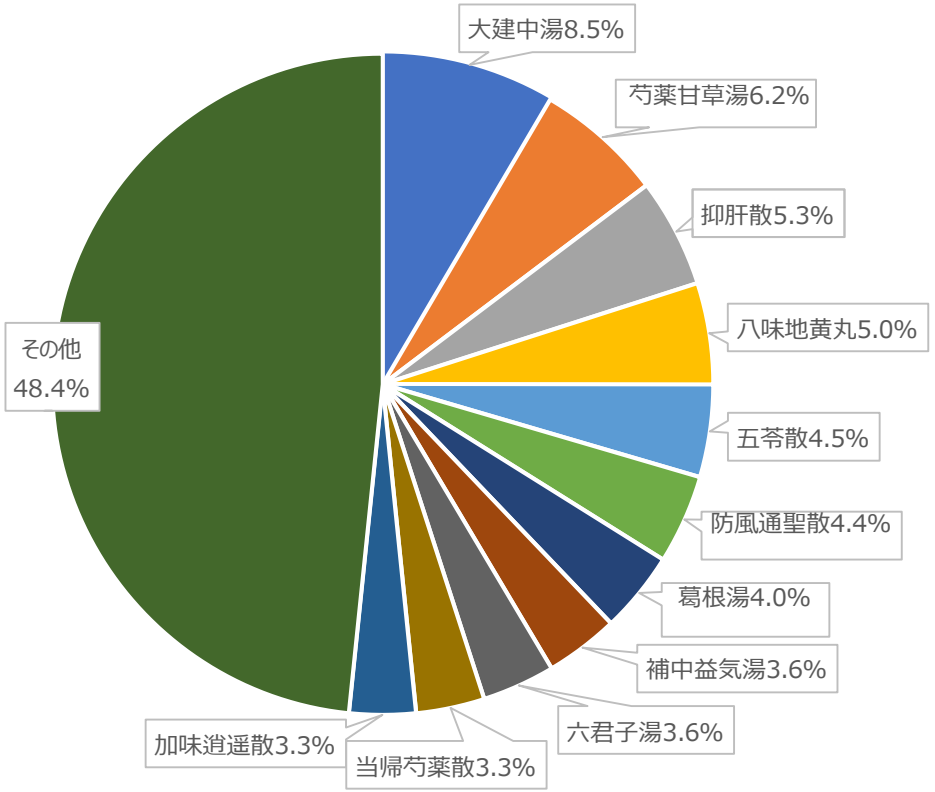
はじめに

- 漢方薬は、日本の医療の幅広い領域で活用され、疾患の治療ならびに回復の促進・健康維持に貢献しています。
- 漢方薬は、医療用漢方製剤として現在148種類が保険収載されています。
- 漢方薬は、保険診療における漢方薬の適正使用が続くことが、国民の皆様の健康や社会活動の支援に繋がります。

医療用漢方製剤の現状

医療用漢方製剤は、様々な疾患の治療手段として使用されています。

医療用漢方製剤シェア



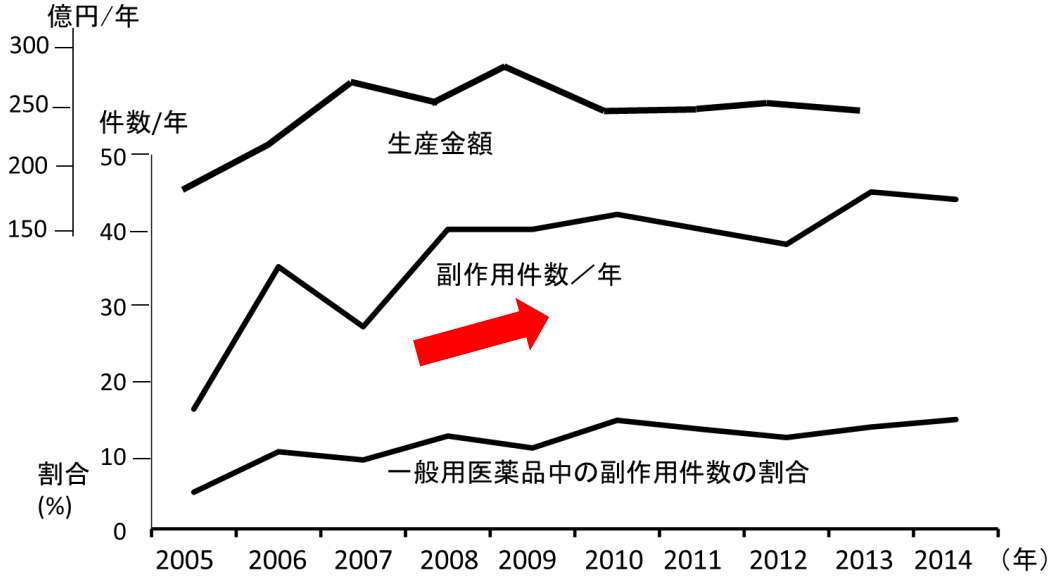
成分名	代表的な使用疾患
大建中湯	手術後の腹部症状（イレウス）炎症性腸疾患
芍薬甘草湯	透析・肝硬変・糖尿病などで起こる筋痙攣
抑肝散	認知症BPSD（興奮症状）
八味地黄丸	過活動膀胱、前立腺肥大
五苓散	慢性硬膜下血腫、心不全、ウイルス性腸炎
防風通聖散	便秘、高血圧症、肥満症
葛根湯	感冒、新型コロナウイルス感染症、乳腺炎
補中益気湯	COPD、手術後の免疫増強、男性不妊
六君子湯	がん支持療法（食欲不振）、逆流性食道炎
当帰芍薬散	月経困難、不妊症、更年期障害
加味逍遥散	月経困難、更年期障害

厚生労働省 第9回NDBオープンデータより日本漢方生薬製剤協会にて集計

外来診療における診察、検査の重要性

漢方薬にも副作用はあります。
安全のため、医師管理の下で適切に漢方薬が使用されることが求められます。

一般用漢方製剤の副作用



上位3つの漢方薬の副作用（2005-2014年度）

防風通聖散		(%)	葛根湯		(%)	八味地黄丸		(%)
肝機能異常	65	(59)	薬疹・過敏症	21	(47)	肝機能異常	2	(13)
肺障害	23	(21)	肝機能異常	9	(20)	腎尿路	2	(13)
消化管	7	(6)	肺障害	2	(4)	過敏症・薬疹	2	(13)
過敏症・薬疹	4	(4)	消化管	2	(4)	肺障害	1	(7)
偽アルドステロン症	2	(2)	腎尿路	2	(4)	消化管	1	(7)
腎尿路	1	(1)	偽アルドステロン症	1	(2)	偽アルドステロン症	0	(0)
その他	8	(7)	その他	8	(18)	その他	7	(47)
全	110	(100)	全	45	(100)	全	15	(100)

【副作用報告】
一般用漢方製剤の副作用報告は一般用医薬品中、<u>10%前後</u>
医療用漢方製剤の副作用報告は2014年度において全医療医薬品のうち<u>0.42%</u>
➡医療用は適切な医師管理の下で使用される！

伊藤隆. 日東医誌. 2016, 67, 184-190.

口腔・顔面領域診療での漢方薬活用

- 口腔は消化器の始まりであり、強力な感覚器でもあり、生命維持の根幹をなす重要な臓器の一つです。
- 口腔・顔面領域の障害は、その構造・機能・神経支配の複雑性から多彩な症状を呈します。
- 歯周病を含めた口腔の異常は、糖尿病・心疾患・呼吸器疾患・フレイルなど数多くの全身疾患と密接に関連します。
- 更に、癌化学療法時の難治性口内炎や口腔乾燥症、原因の特定できない口腔・顔面領域の慢性疼痛など多岐にわたります。
- 漢方薬は歯周病、難治性口内炎、口腔顔面領域の慢性痛、フレイル・オーラルフレイルなどに対して安全に活用され、数多くの症例報告があります。

漢方薬が保険診療で使用できなくなると？

- 漢方薬の自由な使用拡大は、健康被害を増加させる懸念があります。
- 入院診療で漢方薬が使用できなくなり、体に負担をかけずに手術後の回復を促進する術が無くなります。
- 入院期間が長くなることで体力が低下し、経済的負担も増加します。
- がんサポートケアに漢方薬が使えなくなります。
- 小児への投薬の選択肢が狭くなります。

日本臨床漢方医会は宣言します。

今後も

- 日本の医療において、外来から入院まで幅広く活用されている漢方薬が保険診療で継続的に使用されるよう活動します。
- 国民の皆様の健康維持ならびに社会活動、経済活動にさらなる貢献ができるよう、漢方の医学教育、研究、診療のレベルアップに努めてまいります。